

観世流・半能 「井筒」
和泉流・狂言 「禰宜山伏」
観世流・能 「鶴」

小牧山文化事業 入場無料

小牧山薪能

たきぎ

のう

おもて わかおんな
面: 若女

KOMAKI-YAMA
TAKIGINOH

令和8年9月19日(土)

会場

小牧山 史跡公園

(雨天の場合: 小牧市市民会館 大ホール)

※演能中に雨が降った場合は中止となります。

主催/小牧市・小牧市教育委員会・(一財)こまき市民文化財団

後援/中日新聞社、小牧市文化協会、(一社)小牧市観光協会、

小牧豊山くらしのニュース、小牧商工会議所

協力/公益社団法人能楽協会 名古屋支部

問合せ先/(一財)こまき市民文化財団 (0568) 71-9700

※午後6時からの薪能公演中のカメラ、ビデオ、録音機器、携帯電話等による

撮影・録音・録画は固くお断りいたします

※薪能会場内への酒類の持ち込み、水分補給以外の飲食はできません

観覧席開場 / 午後4時

オープニング
セレモニー / 午後5時15分

薪能開演 / 午後6時



SDGs 未来
こまき



一般財団法人
こまき市民文化財団

半能 井筒(いづつ)

旅僧が長谷寺へ参る途中在原寺を訪れ、業平と妻の有常の娘を弔います。すると一人の里の女が現れ、水を汲み、塚に手向けています。僧が問うと、自分は詳しいことは知らないが、業平の塚なので花水を手向けているのだと云います。僧がなおも問うと、業平は有常の娘と、浅からず契りながらも、河内高安の里の女の許に通っていたが、妻が自分の身を案じた歌を詠むのを聞いて、真心を感じて通うのを止めたことを話します。また、幼い頃、井戸のそばで遊んでいた業平と有常の娘が、成人して歌を詠み交わして夫婦となったことを話します。そして自分は有常の娘といい井筒の陰に消えています。

僧は夢の出会いを期待して仮寝をしています。

井筒の女の霊が、業平の形見の冠直衣を身に付けて現れ、舞を舞います。そして我が姿を井筒の水に映して、業平の面影を懐かしみますが、夜明けとともに姿は消え、僧の夢も覚めました。

今回は半能の形式のため後半のみの上演となります。

狂言 禰宜山伏(ねぎやまぶし)

旅の道中、禰宜が街道の茶屋で一服しています。すると偶々山伏が通りかかり、禰宜に対してなにかと難癖を付けはじめ、挙句の果てには肩荷の箱まで押し付けて家来同然に扱おうとする始末。この様子を見咎めた茶屋の主人は、計らいに主人の所有する大黒天を、双方の祈禱で折り比べて勝負するよう提案します…。

一見大人しくも伊勢神宮の威光を背景に持つ芯の強い禰宜と、難行苦行の末に得た能力ゆえ、傲慢な態度をとる山伏の対比がくっきりと描かれている演出で、神仏信仰の表れとともに権力に抑圧された時代背景も捉えた作品です。

また大黒天役には敢えて子どもが演ずる事も多く、大きな小槌を振りながらの采配ぶりは、小さいながらも絶対の自信が伺える、痛快な作品とも云えます。

能 鵲(ぬえ)

諸国一の僧が三熊野に参った後、都へ上る途中蘆屋(芦屋)の里に着き、

里の男に二夜の宿を求めますが断られます。里の男は替わりに川近くのお堂に泊まるようにいい、夜な夜な化け物が出るけど付け加えます。夜も更けてきた頃、お堂で休む僧の前にうっほ船に乗った不思議の者が現れます。私はただの塩焼き海士ですと言っていたのですが、どう見ても人間とは見えません。名を問うと、近衛院の御世に頼政の矢で射られた鵲の亡霊だと明かし、当時の有様を語り、弔いを願って夜の波間に消えていきます。

僧が海辺で御経をあげていると、再び鵲が現れ供養に感謝しつつも、頼政は自分を討つて名を揚げたが、自分はうっほ舟に押し入れられて淀川に流され、蘆屋のよどみに留まって闇夜の世界に入ってしまった。と救いを求めつつ消えて行きました。

能曲「頼政」では、戦に敗れ自害し果て、弔われることもなかった源三位頼政です。本曲「鵲」では、逆に頼政に射落とされ、弔われることもなく、舟で流された怪物「鵲」を主人公としています。どちらもう亡霊となつて、僧の前に現れ弔いを求めています。

出典 半能「井筒」 (http://hisadakan-oh.com/story/060_izutu.html)
狂言「禰宜山伏」 (https://kyogen.co.jp/outline/post_90/)
能「鵲」 (http://hisadakan-oh.com/story/032_nue.html)

番 組			
(午後)			
5:15	オープニングセレモニー 名古屋市立名東高等学校能楽研究部 仕舞 火入れ式		
6:00	観世流・半能「井筒」	シテ (有常ノ娘) ワキ (旅僧) 笛 小鼓 大鼓 後見 地謡	久田三津子 梶元 正樹 竹市 学 後藤嘉津幸 河村裕一郎 武田 友志 吉沢 旭長 下川 宜長 寺澤 幸祐 梅若 志長 瀬井 洋子 村井 邦子 山脇 由美子
7:00	和泉流・狂言「禰宜山伏」	シテ (山伏) アド (御師) アド (茶屋) アド (大黒天) 後見 一 休憩10分 一	松田 高義 野村小三郎 藤波 徹 野村又三郎 鹿島 俊裕
7:10	観世流・能「鵲」白頭	シテ (舟人ノ鵲) ワキ (旅僧) 間 (里人) 笛 小鼓 大鼓 太鼓 後見 地謡	山中 雅志 橋本 幸 井上松次郎 山村 友子 船戸 昭弘 河村真之介 加藤 洋輝 下川 宣長 梅若 紀佳 寺澤 幸祐 武田 友志 松山 親志 梅若 志長 吉沢 旭 伊藤 裕貴
8:10	終演予定		
※出演者等は一部変更となることがあります。ご了承ください。			

雨天会場は 小牧市市民会館 大ホール となります。
(決定は、午後2時頃こまき市民文化財団ホームページ等にてお知らせします)
アクセス:こまき巡回バス「こまくる」…「市民会館前」停留所すぐ、
「市民会館南」下車徒歩5分

会場までのアクセス

小牧山史跡公園…小牧市堀の内一丁目1番地

無料シャトルバス 14:30~22:30 (バスターミナル南側) 会場 (山北橋口) 約10分間隔で運行します

会場(山北橋口)発の最終便のみ東部市民センター・北里市民センター・西部コミュニティセンターにシャトルバスが運行します。

- ・東部市民センター行(小牧駅経由)……………22:00頃発
- ・北里市民センター行……………22:10頃発
- ・西部コミュニティセンター行……………22:20頃発

※各センターの開庁時間外になるため、各センターの駐車場は使用できません。

同日開催 こまき信長夢夜会

史跡小牧山は織田信長が4年間を過ごし、天下統一への足がかりとした信長ゆかりの地です。その小牧山に信長の秋の夜会を再現します。会場内を彩る照明やお花、お酒、グルメ、音楽、情熱的なタンゴのステージ、そんな“おもてなし”の数々を皆様も信長に招かれた客人の気分であげ楽しんでください。詳しくは、小牧市ホームページをご覧ください。

9月19日(土) 午後3時から午後10時

会場 小牧山史跡公園 雨天決行
小牧市堀の内一丁目1番地

音声ガイダンス

能のセリフや場面の解説(「井筒」「鵲」)を音声ガイダンスする、イヤホン付FMラジオを貸出します。

料 金 500円(レンタル料)+1,500円(保証金)
※保証金はラジオ返却時に返金します。

申込方法 当日、薪能FM ガイダンスラジオ貸出所(小牧山史跡公園内)にてお申込みください。